

case 07 畳製作

ものづくりマイスター 浜田 賢治さん
派遣先団体 奈良県畳組合



基礎と応用両面で役立つ技能の習得が職人の希少価値を高める

■奈良県畳組合

(活動拠点：株式会社天理三和畳)
〒632-0004 奈良県天理市標本町798

設立年 平成25(2013)年
代表取締役 吉川 量也
事業内容 畳製作の技能継承
従業員数 17名(2019年12月現在)



平成25年に、畳製作の技能と知識を高めるため、奈良県の畳店が集まって設立されました。同組合は、先人から大切に受け継がれてきた畳の文化を守るため、組合員の技能向上にも力を入れています。現在は、ものづくりマイスターによる指導をはじめとした多くの学びの場を提供。畳文化の継承・発展に大きく貢献しています。

ものづくりマイスターの派遣を依頼した理由

組合員の技能をレベルアップさせ
畳業界全体の活性化を促したい

背景 危機感をバネに技能向上へとつなげたい

日本の伝統文化である「畳」。住環境の変化などで畳の需要が減少している現状に、当社が所属する奈良県畳組合の組合員も危機感を抱いています。しかし、悲観しているばかりではなく、危機感を成長へのバネにし、様々な取り組みを進めています。講習会もその1つです。今回は、奈良県技能振興コーナーに相談し、奈良県が誇る畳製作技能士の浜田マイスターをお願いして「レベルアップ講習会」を実施しました。一流の方による実技指導を通し、組合員の技能と職人としての意識の向上につながることを期待しています。

効果 特殊技能の習得が職人の希少価値に

最近の畳製作は、機械化が進んでいますが、今回、浜田マイスターに指導していただいた特殊な「二方縁薄畳」は、一般的な畳製作にも応用が利くので、技能面でも、畳文化の継承という面でも大変役立つ講習会となりました。今後は、畳納品時の敷き込みのコツやお客様への畳の取り扱いの説明、畳店の経営などについても学べる場を設けたいと考えています。ものづくりマイスターにも協力していただいて若手への技能継承を続けていきたいですね。



包丁3種



奈良県畳組合
組合代表
株式会社天理三和畳
取締役社長
よしかわ かずや
吉川 量也さん

プログラム内容

実施課題 畳製作
目的 「二方縁薄畳」の基礎知識と製作技能の習得
受講対象 奈良県畳組合員7名
ものづくりマイスター 浜田 賢治

1回 「二方縁薄畳」の技能習得



概要

「二方縁薄畳」は、畳の縁が二方向だけに付いたシンプルな置き畳で、神社や寺院の礼拝時などに加え、一般家庭では上敷きとして使用されます。用途に応じて形が違い、仕上げ方も異なります。シンプルゆえに美しさを表現するのは難しく、高い技能が要求されます。その仕上がりで職人の腕の良し悪しが分かるので、すべての畳製作の基本とも言えます。今回は、「二方縁薄畳」に関する歴史などの基礎知識を学んだ後、実技指導を実施しました。

INTERVIEW

ものづくりマイスターと
受講者が語る

「上手になりたい！」向上心を大切に 畳に新たな付加価値を見出す実技指導

丁寧な教えと厳しさの中に見える マイスターの溢れる「畳愛」とは

この日のテーマは「二方縁薄畳」。浜田マイスターは、実技指導に入る前にまず基礎知識に関する座学を行いました。

浜田 まず、「この畳はどうしてこのような作り方をするのか」ということについて理解を深めてもらうため、実技指導で扱う畳の歴史的背景から話すことにしています。最近では、「二方縁薄畳」のような特殊なものを取り上げていますが、若手職人の関心が非常に高く、私も教え甲斐がありますね。実技に関しては、一人ひとりの個性に



合わせた指導を心がけています。几帳面な人もいれば、そうでない人もいます。そうした個性に合わせた指導が、人のやる気や可能性を引き出すのではないのでしょうか。

実技指導を受講した南さんと織田さんは、県内でもその名を知られた浜田マイスターから直接指導を受けられるとあって、参加しました。

南 浜田マイスターの畳に対する情熱は素晴らしく、あらゆる技能に精通していて、同業者として心から尊敬しています。指導では作業工程を分解して分かりやすく教えてくださいました。浜田マイスターの指導を受けられる若手職人は幸せですね。

織田 私が初めて浜田マイスターの指導を受けたのは、1級畳製作技能士を目指していた時です。その時は、技能の凄さにただただ感服した思い出があります。時には厳しいダメ出しもありますが、説明を

聞くと「ああ、なるほどな」と納得する内容ばかり。何よりも、指導の根底に強い「畳愛」があるので、素直にその言葉を受け止めることができるんです。

様々な挑戦も 基本の技能があってこそ

最近、外国人が畳に関心を持つなど日本の文化や生活様式のすばらしさが、世界に認められる新しい動きがみられます。また、現代に合わせた新しい畳が生まれていますが、そこにも畳を作る基本の技能が受け継がれています。

浜田 今は、畳店も付加価値のある商品が求められています。今回の課題である「二方縁薄畳」は、神社や寺院などで使用されるものですが、これはまだ基本の初期段階で、畳の世界には、まだまだ多くの専門知識と共に奥深い技能があります。時間をかけてこれらの習得を重ねることで、必ず完

成度の高い畳に仕上がります。またそれがお客様に対して、本来の畳の美しさを表現することに繋がるのです。その為には常に向上心を持って、「上手になりたい！」という前向きな気持ちが必要です。

織田 「前向きに」という意味では、今から10年ほど前に一気に受注が減った時期に、お客様に畳への関心を持ってもらうきっかけを作るため、財布や名刺入れなどの小物の製作を始めました。それが評価されて次第に畳の受注も増えていきます。今では、海外のイベントなどにも積極的に参加するようにしています。新しい活動をしていても、基礎となるのはやはり技能です。自分自身が学び続けることはもちろんですが、後進にも様々な学びの場を提供したいと考えています。

南 国の補助金を活用したり、インターネットを活用して積極的なPRをするなど、様々な取り組みを行っています。その結果、お客様からたくさんの注文をいただいています。もちろん、その前提になるのは高い技能。畳職人は一生が修行であり、毎日が発見の連続です。そうした点でも、今回のようなマイスターによる指導は重要だと感じています。

日本が誇る畳文化を 未来につなげるために

浜田 現在、受講されている若い職人さんは、誰もが技能を磨くことに熱心です。彼らの成長をこの目で実感できるのは、指導者として何よりも嬉しいですね。すべての教え子たちが、私の跡継ぎだと考えています。美しい畳文化の継承に微力ながら貢献したいです。もちろん私自身も、畳職人としてまだまだ上を目指したいと思っています。

南さんと織田さんにも今後の夢があります。

織田 日本固有の文化である畳の需要が

減ってしまったのは残念でなりません。大切なのは、畳の良さを知ってもらおうきっかけづくりです。その1つとして、高校生に畳に触れてもらうイベントも実施しています。参加した子どもたちが将来家を建てる時に、「ぜひ畳の部屋を！」と言ってくれたら嬉しいですね。

南 私の願いは、畳を奈良の伝統産業にすること。そして、畳職人の社会的地位を向上させたいです。若い畳職人の皆さんには、今の仕事に真剣に取り組んでもらいたいですね。同業者に教えを乞うことを嫌う人もいますが、お互いに切磋琢磨して、積極的に情報発信をして業界全体を盛り上げていきたいです。



「なぜこうするのか」を
起点に一人ひとりに適した
指導を心がけました

厳しいダメ出しがあっても
素直にその言葉を受け止められました

すべての技能に精通する
浜田マイスターを
心から尊敬しています



ものづくりマイスター
(畳製作)
はまだ けんじ
浜田 賢司さん



織田畳店
おだ おさむ
織田 理さん



南たみ店
みなみよしほる
南 佳治さん



ものづくりマイスター 浜田 賢治さん

平成30年度 厚生労働省「ものづくりマイスター（畳製作職種）」認定

指導内容

京都式手縫い上級畳の仕上げ、四つ割りふくまし付けの畳仕上げ、本格的有職畳全般、畳の歴史と専門知識に関する指導

技能指導の実績

企業、団体向けの技能検定（畳製作）1級レベル相当の知識及び実技指導

元禄時代創業の畳店の十四代目として、日々研鑽を積む浜田さん。現在は後進の指導にも尽力されています。その指導法は、確かな理論に基づき、一人ひとりに合わせたきめ細やかなもの。畳への愛が感じられる指導に、受講者たちも真剣な眼差しで取り組んでいました。